バーローヒロインズ
ロリっ子から熟女まで！
JPEG+PDF同梱
基本枚数１６枚＋文字無し差分１６枚＋おまけ【蘭と園子の親友セックス】
基本９枚＋台詞無し差分9枚＋陰毛無し差分９枚＋陰毛あり差分9枚＝合計６８枚
成年向け

「あかんで、蘭ちゃん？蘭ちゃんはあたしのものやからな！ほらぁ…見てや？私の…」
「か…和葉ちゃんまで！？ふ…服着て！それに、何言って…。は、服部君はどうするのよ！？」
「蘭お姉さん！私の相手もして！」
「歩美ちゃん！？…さ、さすがにダメよ！今すぐ服着なさい！」
「蘭！蘭ってば！」
「う…う～ん…。…そ、園子！？なんで裸なの！？」

マニアックな大人の女性ヒロインも多数登場！
女刑事、先生、熟女、弁護士、ＦＢＩ、ＣＩＡ、黒の組織の女…

『あんっ…。やだ…私。何してるのよ？
…べ、別に期待してないけど、
アイツは相変わらず事件で忙しいみたいだし。
…ハァ。明日も朝早いんだし、
こんな事してる場合じゃないわ。
早く寝なきゃ…！
…でも、こんなに溜まってたら…
なんか、変な夢見ちゃいそう…』

『蘭！蘭ってば！』
『う…う～ん…。
…そ、園子！？なんで裸なの！？』
「そりゃあ、いつまでも帰ってこない
あの推理オタクに変わって、
これからは私が蘭とイチャイチャ
するからに決まってるじゃない？」
『な…何言ってるのよ！
私…そんな気は…』

「あかんで、蘭ちゃん？蘭ちゃんはあたしのものやからな！
ほらぁ…見てや？私の…」
「か…和葉ちゃんまで！？ふ…服着て！それに、何言って…。は、
服部君はどうするのよ！？」
「平次は、ビーエルとかいうんで、
工藤君とかとイチャイチャしとるらしいから、
私達も女同士でイチャイチャせな。なぁ…蘭ちゃん？」

「あら。そうは行かないわよ？
蘭さんは、私と愛し合う運命にあるんですもの」
「あ…哀ちゃん！？ダメよ！
あなたみたいな歳の子が…」
「気づいてないとは言わせないわよ？
私はちゃんと、貴女を愛せるだけの歳はとってるわ。
それに貴女……お姉ちゃんに…」
「え…？哀ちゃん…今、なんて…」

「蘭お姉さん！私の相手もして！」
「歩美ちゃん！？…さ、さすがにダメよ！
今すぐ服着なさい！」
「え～？蘭お姉さん、いつも私達にとっても優しい
けど、本当は凄く淋しいんじゃないかなと思って…」
「そ…そんな事ないわよ。そんな事…」
「歩美、蘭お姉さんの力になりたいの！だから…」

「こぉら。いくら毛利さんの所の娘さんだから
って、それやったらさすがにしょっぴくわよ？」
「さ…佐藤刑事！？
なんて格好してるんですか…！」
「なにって…。恋するなら大人にしときなさいって事。
貴女、結構鋭いし、いいパートナーに
なれそうな気がするのよね？」
「ま…まんざらじゃないけど、それじゃ高木刑事が可哀
相過ぎます！」

「なら、私はどう？刑事さんみたいな危険な仕事する人の奥さんより、私みたいな教育者の奥さんのほうが、苦労しないかもよ？」
「こ、小林先生…！？なに言ってるんですか！白鳥刑事はもういいんですか！？」

「Oh！こんなにハーレムなのに、ワガママですネ？ニッポンジンでは飽きたらず、国際結婚したいですカ？」
「ジョディ先生！？た、確かに日本人にはない体つき…。って、そうじゃなくて！」

「新ちゃんがいないからって、
随分イヤらしい娘になっちゃったのね？」
「！…新一のお母さんまで！？
な、なんで…みんなして全裸で、
私を誘惑するんですか！？」
「それだけ、蘭ちゃんがみんなに愛されてるってこと。
ねぇ？新ちゃんを産んだ私としてみるのはどう…？」

「それは困るわね。
私が産んだ娘に
勝手なことしちゃ」
「お…お母さん！？
な…なんて格好
してるのよ！
む…娘の前で…！」
「あの人のおもりも、
いい加減疲れた
でしょう？
私の元へ来て、
毎晩愛の営みを
しない？
私…蘭への想い、
会えない分溜まっ
てるのよ…？」
「お、お母さん…。
け、けど！
それとこれとは…」

九条「あら…妃弁護士の娘さん？ねぇ…聞いて。妃弁護士ったら
ベッドの上では検事の私を責めるのよ？こんなお尻にまで
毛を生やしてるのも…妃弁護士が咥えながら罵ってくるからだし…」
蘭「お、お母さんと争った検事さん…？
ていうかお母さんったら、ベッドの上で何争ってるのよ…？」

「ウッフッフ…。まだ踏ん切りがつかないようね、私のANGEL？」
「あ…貴女、誰？…やだ、怖い…」
「愛されていないのを自覚してないのも、時には死より重い罪になるものなのよ？私が、誰からも愛されるようにしてあげるわ。ほら…」
「？…注射器？なにするの？あっ……」

「貴女が毛利さんね？
何度も組織に潜り込んだりして、
ストレスが溜まってるの。
ほら、舐めなさい？」
「んちゅ…くちゅ…。
私…女の人のアソコ舐めてる…。
しかも、誰…？
えっと…アナウンサーの…」

「ふん。アタシに女になれとは…ジンのやつめ…。
まあいい、どうせなら楽しんでやるさ。
ほら、休まずに舐めろ。さもなきゃ撃ちぬくよ」
「誰…？怖い…？くちゅ…ぷちゅう…」

「じゅぷ…ぷちゅ…。今度は誰…？
…誰だろう？同じ匂いがする…。
哀ちゃん…？」
「貴女が毛利さん…？確かに、
志保が面影を重ねるのも無理ないわね。
似てるわ」
「え…？志保…？」
「志保をよろしくね…？あの子、
気丈に見えてほんと
寂しがりやだから…。
貴女が心を開いてあげて…」

「あはぁん！みんな…！みんなが私を愛してくれてる！
園子も…和葉ちゃんも…哀ちゃんも…！みんな…ありがとう！
私…イクわ！ごめんね、新一…。
い…イクイクイクイク…イックうううううう！！」

園子「ハァハァ…ねぇ、蘭…？ちょっと一回、セックス休憩しない…？
お尻イカされ過ぎて疲れちゃった…」
蘭「えぇっ…もう？園子ったら…その格好、後ろにある全身鏡に
凄い恥ずかしい格好で映ってるよ…？おまんこもアナルも丸出し…」
園子「あぁん！もう…！蘭にしか見られてないからいいの！
それに…お尻上げた私のオマンコしゃぶってたの蘭でしょ？
…全く、激しい体位でヤるの好きなんだから」
蘭「ごめんね、園子。体育会系セックスで…」

園子「ハァハァ…ねぇ、蘭…？ちょっと一回、セックス休憩しない…？
お尻イカされ過ぎて疲れちゃった…」
蘭「えぇっ…もう？園子ったら…その格好、後ろにある全身鏡に
凄い恥ずかしい格好で映ってるよ…？おまんこもアナルも丸出し…」
園子「あぁん！もう…！蘭にしか見られてないからいいの！
それに…お尻上げた私のオマンコしゃぶってたの蘭でしょ？
…全く、激しい体位でヤるの好きなんだから」
蘭「ごめんね、園子。体育会系セックスで…」

園子「蘭ったら…ハァ…ハァ…！私がセックス休憩したらオナニー始めるなんて…さすがよね？」
蘭「あんっ…！だって…せっかく裸でいるのよ？園子の前で…。おっぱいもオマンコも…女の子同士って何回やったら満足するのか分からなくて…」
園子「…耳を澄ますと、蘭の愛汁がオマンコの中でジュボジュボ音立ててるのが聞こえる」
蘭「あぁん！園子の意地悪っ…！ちゃんと見ててよね？園子を想って私、いじってるんだから…」

園子「蘭ったら…ハァ…ハァ…！私がセックス休憩したらオナニー始めるなんて…さすがよね？」
蘭「あんっ…！だって…せっかく裸でいるのよ？園子の前で…。おっぱいもオマンコも…女の子同士って何回やったら満足するのか分からなくて…」
園子「…耳を澄ますと、蘭の愛汁がオマンコの中でジュボジュボ音立ててるのが聞こえる」
蘭「あぁん！園子の意地悪っ…！ちゃんと見ててよね？園子を想って私、いじってるんだから…」

園子「ねぇねぇ…？せっかくラブホテルに来てるんだしさぁ…？
ピザでも取らない？ジャンケンで負けたほうが裸でピザ受け取るのってどう…？」
蘭「もう…園子ったら悪乗りし過ぎ！ダメよ。
園子、ちょっと痩せ過ぎなんじゃない？骨のライン見える所あるし…」
園子「だぁかぁらピザなんじゃない★普段ダイエットしてるから、ちょっとくらい太ったって大丈夫！…って、
あんっ！蘭ったら急にオマンコ舐めないで…！肉ビラ引っ張らないで！」
蘭「園子…ダイエットとかしなくていいよ。愛してるんだから、ちゃんと健康でいてよ…？」

園子「ねぇねぇ…？せっかくラブホテルに来てるんだしさぁ…？
ピザでも取らない？ジャンケンで負けたほうが裸でピザ受け取るのってどう…？」
蘭「もう…園子ったら悪乗りし過ぎ！ダメよ。
園子、ちょっと痩せ過ぎなんじゃない？骨のライン見える所あるし…」
園子「だぁかぁらピザなんじゃない★普段ダイエットしてるから、ちょっとくらい太ったって大丈夫！…って、
あんっ！蘭ったら急にオマンコ舐めないで…！陰毛…唇で引っ張らないで！」
蘭「園子…ダイエットとかしなくていいよ。愛してるんだから、ちゃんと健康でいてよ…？」

園子「あぁん！蘭ったら…女の子同士なのに騎乗位が好きなんて変わってる…！」
蘭「だって、園子ってばまだ回復しないんだもん…！寝てる園子の裸体に…オマンコおしつけるしかないじゃない…？」
園子「ピザ食べたらまたエッチするから…！そ、そろそろ届くから蘭も隠れて…」
蘭「…何回エッチしてくれる？ピザ1枚につき1イキ…？」
園子「げっ…！大きいの頼んじゃった…」
蘭「もぉぉ…園子っ！私の乳首を見てよ！こんなに勃ってるの…全部園子のせいなんだから…」

園子「あぁん！蘭ったら…女の子同士なのに騎乗位が好きなんて変わってる…！」
蘭「だって、園子ってばまだ回復しないんだもん…！寝てる園子の裸体に…オマンコおしつけるしかないじゃない…？」
園子「ピザ食べたらまたエッチするから…！そ、そろそろ届くから蘭も隠れて…」
蘭「…何回エッチしてくれる？ピザ1枚につき1イキ…？」
園子「げっ…！大きいの頼んじゃった…」
蘭「もぉぉ…園子っ！私の乳首を見てよ！こんなに勃ってるの…全部園子のせいなんだから…」

園子「んふふっ…！ほぉら、ピザ…蘭の情けで水着着て応対したけど…何よ、この水着…！かえって変態だと思われたじゃない…！」
蘭「うふふふっ…！園子ってば必死に隠そうとしてて可愛かった！まさか、オマンコからブラックカード取り出すとは思わなかったけど…」
園子「私みたいなガキが、素でブラックカードなんか出したら嫌味でしょ？だから…」
蘭「お金持ちなこと、気にするようになったね…園子。私を…お金持ちのしがらみに巻き込みたくないから…？」
園子「分かんない…。いいから、一緒にいじってよ…？連帯責任でこんなに濡れてるんだからね…？」

園子「んふふっ…！ほぉら、ピザ…蘭の情けで水着着て応対したけど…何よ、この水着…！かえって変態だと思われたじゃない…！」
蘭「うふふふっ…！園子ってば必死に隠そうとしてて可愛かった！まさか、オマンコからブラックカード取り出すとは思わなかったけど…」
園子「私みたいなガキが、素でブラックカードなんか出したら嫌味でしょ？だから…」
蘭「お金持ちなこと、気にするようになったね…園子。私を…お金持ちのしがらみに巻き込みたくないから…？」
園子「分かんない…。いいから、一緒にいじってよ…？連帯責任でこんなに濡れてるんだからね…？」

蘭「あぁん…！どうしたのぉ…園子ぉ…？急にそんなに激しく…アハァァ！私のアナルが園子の指…5本とも飲み込んでぇ…引き抜いてぇ…！アハァァ…！犯されてるみたい…！」
園子「蘭…私、不安なの。蘭が彼女になったら…親友じゃなくなっちゃうのかな…って。ねぇ…どうなのっ？私達こんなにイヤらしい事して…まだ親友なのっ！？」
蘭「ハァッ…ハァッ…！イクッ…！乳首がこんなに勃ったの初めてぇ…！お…オマンコがこんなに自然と開いて…！アハッ！イックゥゥゥゥゥゥ！！」
園子「蘭ったら…もう。セックスのことばっかり…」
ズボッ
ズボッ
ズボッ
ズボッ…
ズボッ
ズボッ
ズボッ
ズボッ

蘭「あぁん…！どうしたのぉ…園子ぉ…？急にそんなに激しく…アハァァ！私のアナルが園子の指…5本とも飲み込んでぇ…引き抜いてぇ…！アハァァ…！犯されてるみたい…！」
園子「蘭…私、不安なの。蘭が彼女になったら…親友じゃなくなっちゃうのかな…って。ねぇ…どうなのっ？私達こんなにイヤらしい事して…まだ親友なのっ！？」
蘭「ハァッ…ハァッ…！イクッ…！乳首がこんなに勃ったの初めてぇ…！お…オマンコがこんなに自然と開いて…！アハッ！イックゥゥゥゥゥゥ！！」
園子「蘭ったら…もう。セックスのことばっかり…」
ズボッ
ズボッ
ズボッ

蘭「園子…反省！」
園子「は、はい…！ゴメンなさい…蘭」
蘭「セックスしてくれないかと思ったら、急に犯すなんて…。愛ってそんなにドラマチックなものじゃないと思うよ…？」
園子「だ、だって…！私、今の蘭との関係も好きだけど…親友だった頃の関係も好きで…。もし、どっちか選べって言われたら…」
蘭「誰も選べなんて言ってないでしょ…？脂汗かき過ぎ」

蘭「園子…反省！」
園子「は、はい…！ゴメンなさい…蘭」
蘭「セックスしてくれないかと思ったら、急に犯すなんて…。愛ってそんなにドラマチックなものじゃないと思うよ…？」
園子「だ、だって…！私、今の蘭との関係も好きだけど…親友だった頃の関係も好きで…。もし、どっちか選べって言われたら…」
蘭「誰も選べなんて言ってないでしょ…？脂汗かき過ぎ」

園子「あぁん！蘭…好きぃ！また蘭に惚れちゃった…！
優しくて男前で…親友だけど、私の恋人…。んヂュ…んヂュ…」
蘭「あんっ…そうよ。もっと手を絡めて、全部…。
乳首もキスして…。んぁぅ…れろっ…てろっ…！」
園子「私…今、オマンコもアナルもキュンキュンしちゃってる…。お互い剃り合ってパイパン
だから…ヌルヌル汁で行ったりきたり…滑っちゃう！」
蘭「園子ったら…。私の穴はいつでも園子を想ってるのよ？だから安心して、いつでも
私の穴に確認しにきて。私の親友兼恋人の園子…」

園子「あぁん！蘭…好きぃ！また蘭に惚れちゃった…！
優しくて男前で…親友だけど、私の恋人…。んヂュ…んヂュ…」
蘭「あんっ…そうよ。もっと手を絡めて、全部…。
乳首もキスして…。んぁぅ…れろっ…てろっ…！」
園子「私…今、オマンコもアナルもキュンキュンしちゃってる…。私の陰毛と蘭の陰毛が
絡まって…引っ張っても取れなぁい…」
蘭「園子ったら…。私の穴はいつでも園子を想ってるのよ？だから安心して、いつでも
私の穴に確認しにきて。私の親友兼恋人の園子…」

園子「あぁん…もうだめぇ…！このまま一生キスしていたい…！
蘭の舌…優しひ…気持ちひひ…！好き…！愛してるわ…
らんんんんぅ…っヂュ…ヂュッ…ヂュゥウ…！」
チュプ
ハァ
ハァ
チュプ
ハァ
ハァ
チュプ
蘭「園子ぉ…！見つめ合うって…気持ちいいね…？
なんか涙が出てきちゃう…。園子の舌と私の舌…似てるよね…？
アフゥ…愛してるぅ…園子ぉ…んブゥ…んヂュ…ヂュぅ…
ヂュぅっ…！」

園子「あぁん…もうだめぇ…！このまま一生キスしていたい…！
蘭の舌…優しひ…気持ちひひ…！好き…！愛してるわ…
らんんんんぅ…っヂュ…ヂュッ…ヂュゥウ…！」
チュプ
ハァ
ハァ
チュプ
ハァ
ハァ
チュプ
蘭「園子ぉ…！見つめ合うって…気持ちいいね…？
なんか涙が出てきちゃう…。園子の舌と私の舌…似てるよね…？
アフゥ…愛してるぅ…園子ぉ…んブゥ…んヂュ…ヂュぅ…
ヂュぅっ…！」